

OTSUKA FORUM

No. 33

December 2015

【研究論文】

- D.H.Lawrence's "Triolet" and "Coming Home from School/Rondeau
Redouble": A Consideration of the Poetic Forms.....Saburo Kuramochi 2
- Grammatical Investigations into English Sentential Noun Phrases: A Sketch
of Their Appropriate Translation into Japanese.....Kazutaka Sasaki 10
- With 構文と指導上の問題点.....山崎 浩之 19
- 5 文型と動詞型を文理解と意味の視点から
眺めてみる (3).....小川 明 26
- 英語に借用された日本語の通時的研究.....藤原 保明 37
- 授業を活かすストーリーリテリング・テストの活用.....平井 明代 49

【随想】

- 反ユダヤ史とその国際社会への影響 (2).....藤田 牧子 70
- 子供の英語習得研究 40 年.....小池 生夫 77
- 〈表紙のことば〉バンクーバー・ギヤスタウンの蒸気時計.....前田 浩 86
- 〈例会報告〉2014 年 10 月~2015 年 9 月.....87
- 大塚英語教育研究会事業報告——その 33.....101
- 大塚英語教育研究会会則.....102
- 『大塚フォーラム』寄稿規定.....104
- 編集後記.....前田 浩 105

〔題字〕伊藤健三

授業を活かすストーリーリテリング・テストの活用

平井明代

はじめに

文科省（2014）が掲げる「グローバル化に対応した英語教育改革」によると、中学校及び高等学校では、「英語を使って何ができるようになるか」という学習到達目標を設定し、指導・評価することが求められている。また、中高どちらの学習指導要領においても、下線（筆者加筆）部分から英語が使える指導が強調されていることがうかがえる。

「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」及び「書くこと」の4技能の総合的な指導を通して、これらの4技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力を育成するとともに、その基礎となる文法をコミュニケーションを支えるものとしてとらえ、文法指導を言語活動と一体的に行うよう改善を図る。また、コミュニケーションを内容的に充実したものとする事ができるよう、指導すべき語数を充実する（文部科学省 2008, p. 3；2010, p.4）。

つまり、教科書で文法・語彙学習やテキストの理解活動後に、学習した言語項目などが使えるように、スピーキングやライティング技能を使って表現活動を充実させることが期待されている。このような動向の中で、4技能を統合的に活用できる活動や評価の一方法として、ストーリーリテリング手法を用いたスピーキングテストを開発した。本稿はストーリーリテリング活動の意義及び教室で使用できるようにそのテストと採点に使用する評価尺度（ループリック）を紹介することを目的とする。

1. 日本人のスピーキング能力の実態

国立教育政策研究所（2007）が「特定の課題に関する調査（英語：「話すこと」）（中学校）」として2005年に行った調査で、日本人中学3年生のスピーキング能力の現状を把握することができる。対象数は33校、計1,090名で、以下の4つのセクションに分けて測定・評価がなされている。

1. 単語レベルでの発話ができるか、また正しく発音ができるか
2. 提示された英語（文）の音声の後について繰り返すことを通して、極めて短時間に正しい文を組み立てて発話することができるか
3. 提示された英語での「話しかけ」に対して英語で応答できるか
4. 与えられたテーマについて、一定の時間内にまとまりのある数文を発話することができるか

テスト結果から、(1) 長いターンを話す (extended talk) こと、(2) 制限時間内に知っていることを話すことや意見を述べるのが、特に弱いことが報告されている。実際の会話ではその場の状況で完全な文でなくとも、あるいはジェスチャーなどを使って意思疎通ができる。また、相手がターンを取っている間に、次の対応を考えることもできる。さらには、相手が自分よりもスピーキング能力がある場合は、相手の使った単語や表現を借りて話したり、簡単な返答で済ませられることも多い。このような理由から、ターンの短い会話よりも、自分の意見を考えながら長く話すモノローグ的かつプランニングなしの課題の方が、スピーキング能力や思考能力が真に問われ難しいと考えられる。

続いて、2014年に4技能がバランスよく育成されているかという目的で、大規模な4技能テストが旧学習指導要領で学んだ高3生に実施された。スピーキングテストに関しては、音読、即興での質疑応答、意見陳述問題の3題（約10分間）で構成され、約1.7万人が受験した。

スピーキングテストの結果に関しては、得点がCEFRのA1レベルの下の方に集中しており、書くことと同様に、発信能力が十分育っておらず、聞くことと読むことに比べてバランスを欠いていることが明らかとなった。具体的に質問紙結果と合わせて、次のように報告されている。

○4技能を通じた言語活動に対する生徒の意識「話すこと」

- ・聞いたり読んだりしたことについて、英語で話し合ったり意見交換をした経験が少ない（合計：35.2%）。
- ・「話すこと」のテストスコアが高いほど、授業において「生徒同士で英語で話し合ったり意見の交換をしたりしていたと思う」生徒の割合が高い。

○4技能を通じた言語活動に関する生徒の取組状況「話すこと」

- ・英語でスピーチやプレゼンテーションをした経験が少ない（合計：

22.9%).

- ・「話すこと」のテストスコアが高いほど、授業において「英語でスピーチやプレゼンテーションをしていたと思う」生徒の割合が高い。(文科省, 2015, p.2)

以上の報告から、読んだり聞いたりした情報を利用して発信能力を身に付けていく技能統合的な活動や評価の機会を増やしていく必要があると考える。この点で、ストーリーリテリング・テストも基本的な技能統合的テストであり、特に、スピーキング能力の中の日本人が比較的弱い長いターンを話すことと限られた時間で意見を言えることを評価の対象としている。また、応用パターンとして、リテリングを行った後にペアになって意見交換をさせることで、そのインタラクション能力も評価できるようになっている。

2. ストーリーリテリング活動

2.1 ストーリーリテリングの定義

本書で扱う「ストーリーリテリング」とは、教科書や教材のテキスト、見た映画やテレビ番組など、読んだり聞いたりしたことを誰かに伝えることである。「ストーリー (story)」とは、2文以上の繋がりのある文章をさし、「文章 (passage)」や「テキスト (text)」と同義である。また、音声によるストーリーは「スピーチ (speech)」とも呼ぶ。

「リテリング (retelling)」の用語については、『オックスフォード現代英英辞典』(*Oxford Advanced Learner's Dictionary : OALD, 2005*)によると、“to tell a story again, often in a different way”と説明されている。よって、retellは、原文に忠実に再話 (reproduce) しても構わないが、自分の言葉で言い換えて話す (rephrase) 方が推奨される。また、長いストーリーを一定の短い時間で再話する場合は、原文よりかなり短い要約 (summary) となる。つまり、ここで扱うリテリング (retelling) は再話とも呼ばれ、条件によって、原文通りの再生 (reproducing)、言い換え (rephrasing)、要約 (summarizing) の行為を含む。要は、与えられた情報をできるだけ正確に相手にわかるように伝えることができるかである。

Gibson, Gold & Sgouros (2003) は、相手を想定して話すストーリーリテリングは、リコール (to recall) とは異なると述べている。リコールは相手を想定していない想起であり、単に自分のために小さい声でぶつぶつと想起しても

よいし、過去の出来事を断片的に想起してもよい。しかし、リテリング活動は、相手に伝えるために、読んだり聞いたりした内容をしっかり理解しようとする事、そして相手を意識してわかるように話すあるいは書くことに主眼がおかれている。

そして、ストーリーリテリングを使って、テストとして使えるようにしたのが、今回紹介するストーリーリテリング・テスト（SRT：Story Retelling Test）である。

2.2 ストーリーリテリング活動の言語

ストーリーリテリング・テスト（Story Retelling Test：SRT）の基本手順は、図1に示されているように、インプットからアウトプットへ進む。インプット活動をターゲット言語であるL2（Second language：L2）で行い、アウトプット活動を母語であるL1（first language：L1）で行った場合は、図1（2）のテキストが理解できたかに焦点を当てた活動になる。SRTは、アウトプットに焦点を当てているため、図1（1）のインプット、アウトプット共にターゲット言語で行うこととする。

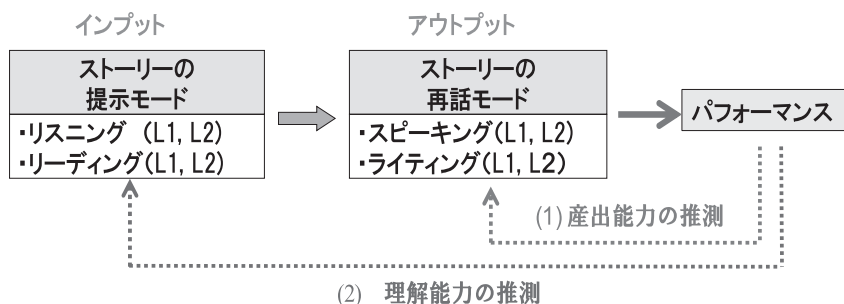


図1. ストーリーリテリング・テスト（SRT）

2.3 ストーリーリテリング活動とテストの技能モード

使用する技能に関して、SRTはリスニングかリーディング技能で情報を提示し、スピーキングかライティング技能でアウトプットする。図2にまとめられているように、SRTをスピーキングで行う場合はSRST（Story Retelling Speaking Test）、ライティングで行う場合はSRWT（Story Retelling Writing

Test) と呼ぶ.

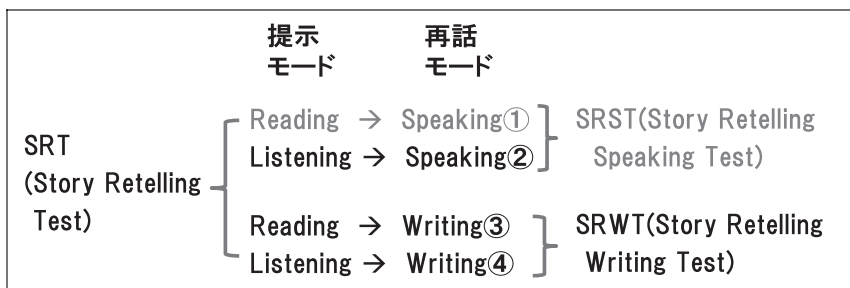


図 2. ストーリーリテリング・テスト (SRT) の提示・再話モード

提示モードと再話モードの組み合わせによって、以下のようにタスクの性質や難易度の異なった様々な技能統合活動やテストを作り出すことができる。

- ① **R → S** : 読解後, 口頭で再話する方法. 読んで文字情報を得ることができるので細部まで情報を掴みやすくなる. しかし, 再話はオンライン活動になるので, 通常③より難易度が上がる. 理解したことを正確に伝えられるかは, 本人のスピーキング能力に帰するところが大きく, 妥当なスピーキングテストとして使用することができる組み合わせである (e.g., Hirai & Koizumi, 2009, 2013; Koizumi & Hirai, 2012). また, 学習活動としても, 口頭で発話するという課題から真剣なインプットを促し, インプット時だけでなく再話時やその後のフォローアップ活動で定着を促すことができる.
- ② **L → S** : 聴解後, 口頭で再話する方法. インプットもアウトプットも, 一過性の情報を扱うため, このモードの組み合わせが最も難しくなる. また①のリーディング後の再話に比べて発話が概要的で細部に欠ける傾向がある. Yokouchi (2014) は, この組み合わせの場合, 発話量 (tokens and indexes), 語彙の複雑さ (Guiraud index), 流暢さ (wpm), パフォーマンスの得点が有意に低かったと報告している. よって, 純粋にスピーキング能力を測定したい場合は, リスニングの難易度を下げ, 比較的長いスピーチではメモを取ることを許可して実施する必要がある. 現実に講義やニュース番

組などの音声情報を伝えこともあり得るので、真正性のある良い組み合わせと言える。

- ③ **R → W**：読解後、筆記で再話する方法。ストーリーの提示段階で、文章をある程度自分のペースで読めるため、細部情報や重要な表現などに注意を払うことができる。そして、再話時においても自分のペースで書き起こせるため、最も安定したパフォーマンスを引き出すことが出来る。よって、学習者にとって難しい表現を真剣に覚えようとする行為を促す効果的な活動だと言える。しかし、視覚によるインプットからアウトプットであるため、最もインプットの影響を受けやすく、どこまで書く能力があるか判断しにくくなる可能性がある。

上記の理由で、テストとして使用する場合は、長い文章を短く要約させる、あるいは本文を踏まえて意見を書かせる課題の方が、時間的にもまた思考力や書く力を測る上でも、妥当な評価ができる。構成のしっかりした質の高い要約や意見を求める場合は、口頭によるオンライン作業では認知負荷が高すぎるため (Frost, Elder, & Wigglesworth, 2012)、ライティングによる方法の方が適している。

- ④ **L → W**：聴解後、筆記で再話する方法。音声から文字に起こす活動になり、モード間の差が大きく②の組み合わせほどではないが、難易度は高くなる。リスニング時にどこまで細部まで理解できたか、メモを許可した場合、その情報をどの程度再生できるかによるところが大きいと言える。よって、リスニングの難易度が上がるほど②同様にライティングの内容が概要的で細部に欠ける傾向がある。パフォーマンスが、リスニング能力によるものかライティング能力によるものなのか検討するには、リスニング提示後に内容理解問題を課して理解度を測ることである (4章, 図8参照)。また、ライティング評価観点の内容に関する正確性 (正確な内容の再生率) はリスニング能力によるもの、言語に関する正確性はライティング能力によるところが大きいと推測できる。文字情報に頼れないため同じ表現を再生しづらく、自分の言葉でその内容を伝える能力を鍛える活動ができると考えられる。

このように、4技能の組み合わせで、さまざまな能力を鍛える活動が可能であるだけでなく、それを評価に使用することもできる。

3. ストーリーリテリング・スピーキングテスト (SRST) の実施方法

3.1 SRST の目的と基本手順

SRST の基本的な流れを図3に示す。情報を入力するインプット活動と情報を発信するアウトプット活動があり、それぞれの活動には2つの手順部分がある。これらの手順に変化をつけることで、用途に沿ったさまざまなバリエーションのテストを作ることができる。

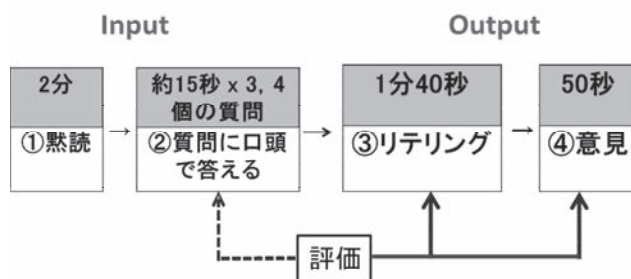


図3. SRSTの基本手順

ここでは、基本バージョンとそのバリエーションの目的と実施手順を紹介する。調査の結果、2分間でストーリーを黙読する最適な長さは100語から150語ぐらいだと考えられる (Hirai & Koizumi, 2009)。しかし、テキストの難易度、トピック、黙読時間を調整することによって、さまざまなレベルの学習者に実施することができる。

Form 1：基本バージョン

▶基本バージョンの目的

1. ストーリーの内容を理解し、それに関する質問に口頭で答えることができる。
2. ストーリーの内容を相手にわかるように正確に伝えることができる。
3. ストーリーの内容やトピックに関して、口頭で感想や意見を最低3文以上で述べることができる。

▶基本バージョンの手順

- Step 1. 提示されたストーリーを2分間で黙読する。
- Step 2. ストーリーの内容に関する3, 4個の問いに口頭で答える。
- Step 3. テスト用紙を裏返し, キーワードを見ながら1分40秒で再話する。
- Step 4. 再話の最後に, 50秒間でそのストーリーの内容やトピックに関して感想や意見を述べる。

▶サンプルテスト1 (基本バージョン)

Read the story silently within two minutes.

2分間で次の文章を黙読しなさい。

Visiting Hawaii

Hiro's family decided to visit Hawaii for their summer vacation. Hiro was very excited because he had always wanted to go abroad. He began to study harder in his English class at school. He also bought a phrase book and learned lots of useful English words and phrases.

When Hiro's family got to Hawaii, Hiro was surprised to find that many people spoke to him in Japanese. He was disappointed that he could not practice his English. Then one day, his family went to a restaurant in a small town. Nobody in the restaurant knew Japanese. So Hiro's family had to use English to order their food. After they had ordered, his mother said, "Your English is much better than mine." He was very happy to hear that.

After the signal, read each question aloud and answer it in English.

それぞれの質問の前の合図を待って, 1問ずつ質問を読み上げて, 英語で答えなさい。

Q1 : Why did Hiro study harder?

Q2 : Why was Hiro surprised when his family got to Hawaii?

Q3 : When did Hiro's family have to use English?

After the signal, turn over the sheet.

Retell as much of the story as you can in English in 1 minutes and 40 seconds. You can look at the keywords while you are retelling. At the end of your retelling, be sure to include your opinions about the story in at least three sentences. You can start expressing opinions when you hear the signal 50 seconds before the time is up.

今読んだ内容をできるだけ詳しく、1分40秒間英語で話さない。下記のキーワードを見ても構いません。読んだ内容を話し終えたら、必ず、その内容についての感想や関連することを3文以上の英語で述べなさい。終了50秒前をチャイムで知らせますので感想を述べる目安にできます。

Keywords

Hiro, Hawaii, abroad, disappointed, restaurant

3.2 SRST のバリエーション

基本バージョン（図3）の4つのステップのどこかを変更することによって、異なった目的のテストを作ることができる。例えば、既習の文法が異なる文脈で使えるかを評価したり、長いテキストを短く口頭要約や筆記要約ができるかを評価することも可能である。ここでは4つのバリエーションを紹介する。

これらのテストは、学習者のレベルに応じて、適宜、テスト前の準備活動（pre-activity）や、学習の定着を図るために事後活動（post-activity）を行うと学習効果が高くなると考えられる。

Form 2：音読バージョン

基本バージョンの Step2 では、黙読後に3、4個の質問に答える形をとっているが、音読バージョンは黙読と理解問題の間に音読をさせる。これによって、さらにテキスト理解と気づきを促すことができる。また、声に出しておくことで次のリテリングが行いやすくなる。形式的には、英検2級の2次試験に似ており、その対策としても利用できそうである。

▶音読バージョンの目的

1. ストーリーの内容を理解し、それに関する質問に口頭で答えることができる。
2. ストーリーの内容を相手にわかるように正確に伝えることができる。
3. ストーリーの内容やトピックに関して、口頭で感想や意見を3文以上で述べることができる。

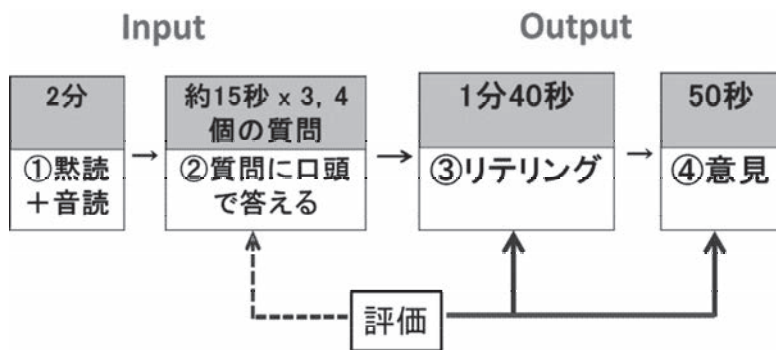


図4. 音読バージョンの手順

▶音読バージョンの手順

- Step 1. ストーリーを2分間で黙読する。その後、ストーリーを音読する。
- Step 2. ストーリーの内容に関する3, 4個の問いに口頭で答える。
- Step 3. テスト用紙を裏返し、キーワードを見ながら1分40秒で再話する。
- Step 4. 再話の最後に、50秒間でそのストーリーの内容やトピックに関して感想や意見を述べる。

Form 3: ターゲットありバージョン

ターゲットありバージョンは、学習項目を学習したテキストあるいは異なるテキストに入れてリテリングすることによって、そのターゲット項目が使えるかを確認することができる。作成方法は、サンプルテスト2にあるように、使ってほしい項目部分に下線を引き太字にする。そして、その部分に意識が向くように指示文も工夫する。さらに、リテリング時にキーワードだけでなく、

その文法項目やターゲット文が入った文の日本語訳文を載せておくと、どのようなターゲット表現を使うかを思い起こさせることができる。

▶ターゲットありバージョンの目的

1. ストーリーの内容を理解し、それに関する質問に口頭で答えることができる。
2. ストーリーの内容を相手にわかるように正確に伝えることができる。
3. ストーリーの内容やトピックに関して、口頭で感想や意見を3文以上で述べることができる。
4. ストーリー内に指定された文法や表現を、リテリングの際に正しく使うことができる。

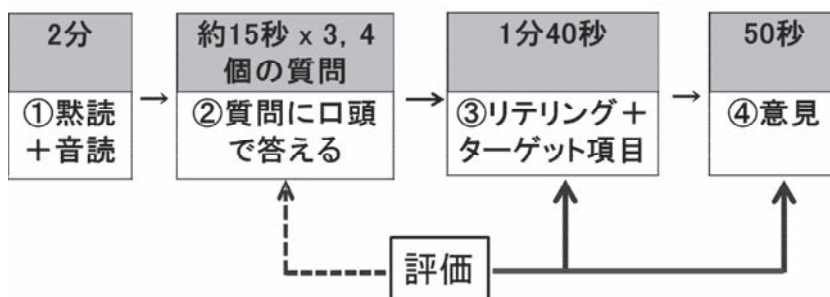


図5. ターゲットありバージョンの手順

▶ターゲットありバージョンの手順

- Step 1. ストーリーをターゲット項目に注目して、2分間で黙読する。
- Step 2. ストーリーの内容に関する3、4個の問いに口頭で答える。
- Step 3. テスト用紙を裏返して、キーワードを見ながら1分40秒で再話する。その際にターゲット項目を使うようにする。
- Step 4. 再話の最後に、50秒間でそのストーリーの内容やトピックに関しての感想や意見を述べる。

▶ サンプルテスト 2 (ターゲットありバージョン)

Read the story silently within two minutes. While you are reading, pay attention to underlined target grammatical items (passive voice : be + emotional verb) in order to use them when retelling.

2分間で次の文章を黙読しなさい。特に、下線部分のターゲット文法項目 (感情を表す動詞の受身形) をリテリングで使えるように注意して読みなさい。

リテリングを
使えるよう
支持を出しておく

Visiting Hawaii

Hiro's family decided to visit Hawaii for their summer vacation. Hiro was very excited because he had always wanted to go abroad. He had learned a lot of English in his English class at school. He also bought a phrasebook and learned many useful English words and phrases.

ターゲット項目は
目立つように太字で下線

When Hiro's family got to Hawaii, Hiro was surprised to find that many people spoke to him in Japanese. He was disappointed that he could not practice his English. Then one day, his family went to a restaurant in a small town. Nobody in the restaurant knew Japanese. So Hiro's family had to use English to order their food. After they had ordered, his mother said, "Your English is much better than mine." He was very happy to hear that.

Q1~4

Retell as much of the story as you can in English in 1 minutes and 40 seconds. Try to use the target items while you are retelling. At the end of your retelling, be sure to include your opinions about the story in at least three sentences. You may begin your opinions when you hear the signal 50 seconds before the time is up.

今読んだ内容をできるだけ詳しく、1分40秒間英語で話しなさい。下記の文法事項をできるだけ使って話しなさい。読んだ内容を話し終えたら、必ず、その内容についての感想や関連することを3文以上の英語で述べなさい。終了50秒前にチャイムで知らせますので感想を述べる目安にできます。

Keywords : Hiro, Hawaii, abroad, disappointed, restaurant

Target items : 感情を表す受身形

- ① ヒロは海外に行ってみたくないとずっと思っていたので大変興奮した。
- ② ヒロはたくさんの人が日本で話しかけてくれることがわかって驚いた。
- ③ 彼は英語の練習が出来なくてがっかりした。

Form 4：意見交換バージョン

ペアで意見交換をさせることができるバージョン。基本バージョンのように一人で意見を述べる代わりに、あらかじめ決めておいたペアで、ストーリーの内容やトピックに関してディスカッションを行ってもらおう。ペアが同じストーリーを共有しているので、意見交換はリテリング後すぐに行うことができる。意見交換しやすいように、意見交換のためのディスカッショントピックや質問を入れておいてもよい。

相手に質問をしたり、質問に答えたり、また、会話を続ける能力などのインタラクション能力を評価することができる。

▶意見交換バージョンの目的

1. ストーリーの内容を理解し、それに関する質問に口頭で答えることができる。
2. ストーリーの内容を相手にわかるように正確に伝えることができる。
3. ストーリーの内容やトピックに関して、ペアで感想や意見を交換できる。
4. ストーリー内に指定されているターゲット項目を、リテリングで使うことができる。（但し、ターゲット項目を使用する場合）

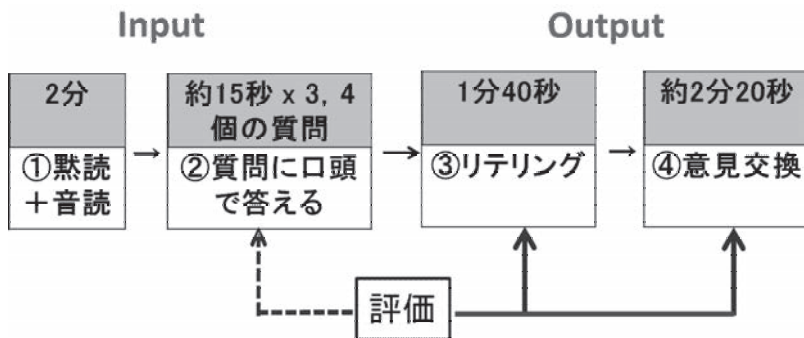


図 6. 意見交換バージョンの手順

▶意見交換バージョンの手順

- Step 1. ストーリーを2分間で黙読する。
- Step 2. ストーリーの内容に関する3,4個の問いに口頭で答える。
- Step 3. テスト用紙を裏返して、キーワードを見ながら1分40秒で再話する。
- Step 4. 合図の後に、あらかじめ決めた相手とストーリーに関して、約2分20秒間で意見交換をする。3回以上のやり取りを行い、相手の発話に対して質問も行う。

Form 5：要約バージョン

これまで紹介してきたSRSTは2分以内で読める長さに調節してきた。しかし、実際はもっと長いテキストを読んだり聞いたりすることもある。その際にリテリングの時間を長くしてストーリーの詳細まで求めると、記憶力のテストになってしまう。よって、リテリング時間は変更せず1分40秒のままか、長くても2分で行うように設定する。そうすることで、短い発話時間で全体の格子部分をわかるようにまとめて話す必要がでてくるため、要約の能力が必要になってくる。単なるリテリングよりも情報の選択や構成能力が必要で比較的熟達度の高い学習者に向いている。後で要約しやすいように読む際にメモを許可し、使いたい単語や句に下線を引きながら、要点を掴ませるようにしてもよいかもしれない。また、前述したように、じっくりトピックセンテンスなどを考えて構成のしっかりした要約を求める場合は、筆記要約の方が適している。

▶要約バージョンの目的

1. ストーリーの内容を理解し、それに関する質問に口頭で答えることができる。
2. ストーリーの内容を相手にわかるように要約して伝えることができる。
3. ストーリーの内容やトピックに関して、ペアで感想や意見を交換できる。
(あるいは、一人で意見を3文以上で述べることができる。)

▶要約バージョンの手順

Form 1 または Form 2 と同じ。

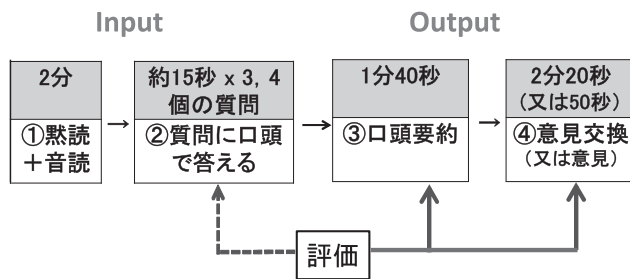


図7. 要約バージョンの手順

4. 評価尺度

4.1 評価尺度の質

主観的になりやすいスピーキング・パフォーマンスの評価で、信頼性を高めるのに最も効果があるのが評価尺度（ルーブリックとも呼ぶ）を使用することである。そのルーブリックの採点基準（scoring criteria）を具体的かつ明瞭にしておくことで、信頼性だけではなく次のような効果をもたらす。

- (1) 授業で実施する場合は、通常、教師一人で採点を行うので、一人で一貫した評価を行うことができ、評価者内信頼性（intra-rater reliability）を高めることに繋がる。
- (2) 複数で採点する場合でも、評価者間のぶれを小さく抑えることに繋がるので、評価者間信頼性（inter-rater reliability）を高めることになる。
- (3) 採点しやすいルーブリックは自己評価やピア評価にも使用することができる。クラスメートや自分のパフォーマンスを聞いて採点することで、自分への気づきやフィードバックになり学習効果を高めるなどの良い波及効果（washback）が生まれやすくなる。
- (4) 具体的でシンプルな記述子（基準）は、テストで何を測定しているかを明らかにしており、かつその最も高い基準の記載がパフォーマンスの目標を示していることになる。つまり、このテストで何を求めているかという妥当性（validity）をしっかりと押さえていることになる。
- (5) 簡潔で明瞭な記述子は、フィードバックを書く時間を削減し、採点のスピードを上げることができる。これはテストの実用性（practicality）を高めることになる。

このように、明瞭な評価尺度を使用することが、妥当性、信頼性、実用性、波及効果の面からたいへん重要である。

4.2 SRST のルーブリック

4.2.1 質疑応答の評価

ストーリーに使うテキストはそれほど難しいものを使用せず、質問もリテリングを助けるためのものとなっている。そのため、テキストから簡単に答えを探して答えられるようになっていく。よって、通常は質疑応答用ルーブリックを使用する必要はない。しかし、あえて難しいテキストを使用しその理解度を測定したい場合（2.3 ④参照）や、あるいは、リテリングのパフォーマンスが低い場合にテキスト理解が原因なのかを探る場合などに使用することができる。

SRSTの採点シート		トピック名:		日付:	
		受験者番号:		受験者名:	
質問の採点		※当てはまるレベルに○をつけなさい。		コメント	
Q1	間違い	0]]	
	応答としては少し不自然(ミスや言い淀み)	1			
	正答	2			
Q2	間違い	0]]	
	応答としては少し不自然(ミスや言い淀み)	1			
	正答	2			
Q3	間違い	0]]	
	応答としては少し不自然(ミスや言い淀み)	1			
	正答	2			
Q4 (※あれば採点する)	間違い	0]]	
	応答としては少し不自然(ミスや言い淀み)	1			
	正答	2			
		質問 合計点			

図 8. 質疑応答のルーブリック

4.2.2 リテリングのルーブリック

リテリングのルーブリックは、評価表と EBB (Empirically derived, Binary-choice, Boundary-definition) 尺度がある (Hirai & Koizumi, 2013; Koizumi & Hirai, 2012)。図 9 の評価表の 6 観点 (criteria) すべてを使用する必要はな

く、焦点を当てた部分だけを使用するのもよい。また、クラスのニーズに合わせて適宜、改変することも必要になるかもしれない。以下、紙面の関係で評価表のみを紹介する。EBB 尺度に関しては上記の論文が参考になる。

再話の採点							
採点項目	レベル			コメント			
※発話が1文以下の場合は評価せず、合計点0にする。	※当てはまるレベルに○をつけなさい。			※具体的に間違いなど、気がついた事を指摘してあげてください。			
1. 流暢さ	言い淀みが多く、聞きづらい	0	}]			
	単語ごとに頻繁に切れるのが、気になる	2					
	言い淀みが、少ない	4					
	言い淀みがほとんどなく、流暢で自然	6					
2. 表現・文法	間違いが、かなり多い	0	}]			
	間違いが、少し気になる	2					
	間違いがほとんどなく、気にならない	4					
	間違いがほとんどなく、様々な語彙や表現を使おうとしている	6					
3. 発音 (強勢・イントネーション含む)	間違いや訛りが、ひどく聞きづらい	0	}]			
	間違いや訛りが、あるが聞きやすい	2					
	間違いや訛りが、少なく聞きやすい	4					
	間違いや訛りが、なく自然	6					
4. 内容	内容が違う	0	}]			
	大枠だけで詳細がない	2					
	詳細も少しある	4					
	大枠と詳細があり、時間内によくまとまっている	6					
5a. 意見・感想	意見がない	0	}]			
	意見が、1、2文ある	2					
	意見が、3文程あるが内容に乏しい	4					
	意見が、3文以上あり内容も素晴らしい	6					
5b. 意見交換 (ペアで行う場合)	意見がない	0	}]			
	意見が、少しある	2					
	意見を述べるだけでなく、質問が1、2回ある	4					
	質問・意見とも複数回あるが、内容に乏しい	6					
6. 態度 (録音音声の場合は評価しない)	適度な声の大きさと聞き取りやすい	+2	}]			
	自然なアイコンタクトやジェスチャーなどがあり伝えようとしている	+2					
	合計点						
基本・要約バージョン(平井2015.10)							

図9. 基本バージョン及び要約バージョン用ルーブリック

再話の採点																						
採点項目	レベル																				コメント	
※発話が1文以下の場合は評価せず、合計点0にする。		※当てはまるレベルに○をつけなさい。																			※相手の今後の練習のために、具体的に間違いなど、気がついた事を指摘してあげてください。	
1. 流暢さ	言い淀みが多く、聞きづらい	0	[]																		
	単語ごとに頻繁に切れるのが、気になる	2																				
	言い淀みが、少ない	4																				
	言い淀みが、ほとんどなく流暢で自然	6																				
2. ターゲット表現・文法 ()	適切に、使えていない	0	[]																		
	適切に、1つ使えている	2																				
	適切に、ほとんど使えている	4																				
※ターゲットがあれば記入し採点する。																						
3. 表現・文法 (ターゲット項目以外)	間違いが、かなり多い	0	[]																		
	間違いが、少し気になる	2																				
	間違いが、ほとんどない	4																				
	間違いがほとんどなく、様々な語彙や表現を使おうとしている	6																				
4. 再話の内容	内容が違う	0	[]																		
	大枠だけで詳細がない	2																				
	詳細も少しある	4																				
	ほぼ全てある	6																				
5. 発音 (強勢・イントネーション含む)	間違いや訛りが、ひどく聞きづらい	0	[]																		
	間違いや訛りが、あるが聞きやすい	2																				
	間違いや訛りが、少なく聞きやすい	4																				
	間違いや訛りが、なく自然	6																				
6. 意見交換	意見がない	0	[]																		
	意見が、少しある	2																				
	意見を述べるだけでなく、質問が1, 2回ある	4																				
	質問・意見とも複数回あるが、内容に乏しい	6																				
	質問・意見とも複数回あり、内容も素晴らしい	8																				
7. 態度 (録音音声の場合は評価しない)	適度な声の大きさと聞き取りやすい	+2	[]																		
	自然なアイコンタクトやジェスチャーなどがある	+2																				
		リテリング 合計点	[]																			
(意見交換版(平井2015.7))																						

図 10. ターゲット項目バージョン及び意見交換バージョン用ループリック

5. SRST の教師及びピア評価結果と外部テストとの関係

スピーキングは4技能の中では最も苦手と回答する人が多く、そのためか最も習得したい技能に選ばれている (e.g., 平井・藤田・大木, 2013). 苦手とする理由は、概ねスピーキング特有の即効性、対話の相手からもたらされる偶発性によるものである。言語使用が自動化した L1 では内容に集中して話せるが、L2 で言語形式と話す内容の両方をオンラインで操作するのは、ワーキングメモリの負担が大きい作業となる。これを克服するには、内容に集中できる言語使用能力を身に付けることである。それには、そのような機会を多く持つ必要があり、その一つの機会として SRST を利用することができる。

SRSTの妥当性に関しては、メモリー容量の限界で、ほとんどのテキスト内容は自分の言葉で発話しなければならない。そして、相手に理解してもらえるようなイントネーションや発音にも留意する必要がある。さらに、リテリング後にストーリーに関する意見を述べなければならないため、SRSTはスピーキング能力の構成要素の必要な言語能力及び思考能力や表現能力などの認知能力を測っていると思われる。

それを確認するために、SRSTの受験者に外部テストのTelephone Standard Speaking Test (SST; ALC Press, 2010), Standard Speaking Test (SST; ALC Press, 2008), Versant (Pearson Education, 2008)を受験してもらい、その相関を算出した。その結果、表1に示すように、.64から.76の高い相関が見られた。よって、SRSTは41% ($=.64 \times 100$)から58% ($=.76 \times 100$)の割合で外部テストに共通するスピーキング能力を測定しており、それ以外にタスクに特化した認知能力等を測定していると考えられる。つまり、SRSTとこれらのルーブリックを使用することによってスピーキング能力の妥当な評価ができると言える。

また、4.2.2節図10のルーブリック（但し修正前バージョン）を使用した教師評価とピア評価の相関では.53と中程度の相関を示しており、生徒評価も参考にすることはできそうである。しかし、教師評価 ($r = .76$)の方がピア評価 ($r = .59$)よりTSSTとの相関が高く、教師評価の方がより信頼性が高いことがわかる。

表1. SRSTの教師評価とピア評価、及び外部テストとの相関

	SRST_peer ^a	TSST ^b	SST ^c	Versant ^d
SRST_teacher	.53*(n = 58)	.76*(n = 55)	.64*(n = 65)	.64*(n = 65)
SRST_peer		.59*(n = 55)		

Note. a, bは4.3.2節のルーブリック(2)を利用(Hirai, 2014); c, dはEBB尺度を利用(Koizumi & Hirai, 2012)

6. まとめ

本稿でストーリーリテリング・テストとそのルーブリックを紹介した。教科書の本文だけでなく、別のテキストやニュース番組などの音声教材を使って、

簡単にSRSTを作成・実施できる。また、SRSTは外部テストとの相関も高く、そのルーブリックはピア評価にも使用できる。受容能力に偏らない授業展開と評価が求められる中、実用性及び妥当性、信頼性を兼ね備えたSRSTの利用価値は高いと考えられる。
(筑波大学)

引用文献

- ALC Press. (2010). *TSST: About the test format and assessment*. Retrieved from <http://tsst.alc.co.jp/tsst/e/assessment.html>
- ALC Press. (2008). *The Standard Speaking Test (SST)*. Retrieved from <http://www.alc.co.jp/edusys/sst/english.html>
- Frost, K., Elder, C., & Wigglesworth, G. (2012). Investigating the validity of an integrated listening-speaking task : A discourse-based analysis of test takers' oral performances. *Language Testing*, 29, 345-369.
- Gibson, A., Gold, J., & Sgouros, C. (2003). The power of story retelling. Retrieved from <http://www.nationalservicerresources.org/filemanager/download/learns/spr2003.pdf>
- Hirai, A., Ito, N., & O'ki, T. (2010). Applicability of Peer Assessment for Classroom Oral Performance. *JLTA Journal*, 14, 41-59.
- Hirai, A., & Koizumi, R. (2008). Validation of the EBB Scale : A case of the Story Retelling Speaking Test. *JLTA Journal*, 11, 1-20.
- Hirai, A., & Koizumi, R. (2009). Development of a practical speaking test with a positive impact on learning using a story retelling technique. *Language Assessment Quarterly*, 6, 151-167.
doi : 10.1080/15434300902801925
- Hirai, A., & Koizumi, R. (2013). Validation of Empirically-Derived Rating Scales for a Story Retelling Speaking Test. *Language Assessment Quarterly*, 10 : 398-422.
doi : 10.1080/15434303.2013.824973
- Koizumi, R., & Hirai, A. (2012). Comparing the Story Retelling Speaking Test with other speaking tests. *JALT Journal*, 34, 35-59.
- Pearson Education. (2008). *VersantTM English Test*. Retrieved from <https://www.versanttest.com/samples/english.jsp>
- Yokouchi, Y. (2014). Comparative study of the characteristics of utterances in retelling tasks : Case of text length, difficulty, and input mode. *JACET-KANTO Journal*, 1, 64-79.
- 国立教育政策研究所 (2007). 「特定の課題に関する調査 (英語 : 「話すこと」) (中学校)」 Retrieved from http://www.nier.go.jp/kaihatsu/tokutei_eigo/index.htm

- 平井明代・藤田亮子・大木俊英（2013）. 「センターリスニングがもたらすリスニング学習意欲への影響：大学種別・入試形態・専攻ごとの分析に基づく考察」
JACET Journal, 57, 59-81.
- 文部科学省（2008）『中学校学習指導要領解説 外国語編』 Retrieved from
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2011/01/05/1234912_010_1.pdf
- 文部科学省（2010）『高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編』 Retrieved from
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2010/01/29/1282000_9.pdf
- 文部科学省（2014）. 「今後の英語教育の改善・充実方策について報告（概要）
～グローバル化に対応した英語教育改革の五つの提言～」 Retrieved from http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/102/houkoku/attach/1352463.htm
- 文部科学省（2015）. 「平成 26 年度英語力調査（高校 3 年生）結果の概要」
Retrieved from http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/__icsFiles/afieldfile/2015/07/03/1358071_01.pdf